

# 各種専門学校における学生の生活と意識

## —看護専門学校における事例—

渡辺安男・狩野寿夫\*

### 1. はじめに

近年、資格社会の時代といわれ、高校卒業者だけでなく、大学を卒業しても各種学校や専門学校で学ぼうとする者もなかにはいるし、また、大学在学中も資格取得をめざして各種の通信教育を受けたり、各種学校に通ったりしている学生もなかには見受けられる。多様な新しい学習需要の急増に伴い、従来の学校教育体系の枠組を越える多様で独創的な新しい教育サービスの供給体系も登場してきている。情報化社会などと叫ばれ、コンピューター関連の産業が盛んになるにつれ、情報処理関連等の各種専門学校も次々と設置されてきている。そして、冒頭で述べたような傾向にさらに拍車をかけてきている。また、従来の教育体系を見直して再編成し、各種学校や専門学校の卒業生をも大学に入学させようという動きがでてきた。

このようにして、各種学校や専門学校の学生に関心が集中してきているが、そこで学んでいる学生はどのような生活をし、どのような考えをもって暮らしているのだろうか。このような各種専門学校の学生の生活と意識に焦点をあわせた調査研究というのは、これまであまり多くなされてこなかったといえよう。

そこで、われわれは、各種専門学校の中でも手始めに看護専門学校をとりあげ、そこでの学生の生活と意識を把握することにした。そして、できれば、このような調査の研究成果を踏まえて、コンピューター関連の各種専門学校も含めたさらに広い領域の専門学校の学生の生活と意識を今後調査研究していこう

---

※ 香川県立高松高等学校教諭（日本社会学会会員・日本教育社会学会会員）

と思っている。

ところで、看護専門学校<sup>1)</sup>の学生たちは、どのような動機で看護婦になろうとしたのであろうか。また、現在、どのような社会関係の中で、どのような役割を演じ、どのような規範に影響を受けながら生活し、彼女たちの目標を達成しようとしているのであろうか。

第一に、そのような看護専門学校<sup>1)</sup>の学生のおかれている実態を把握しようと思う。

第二に、看護婦になろうとした動機は、役割や規範、目標、生活意識等とどのような関連があるのであろうか。これらの要因間の関連をも分析してみたいと思う。

## 2. 調査研究の枠組と方法

看護学生の生活と意識を分析するに際しては、生活構造論的手法を用いて、構造的側面として、生活時間、生活空間、金銭状況、生活手段、役割構造、社会関係、生活規範、情報ルート、社会的背景、生活意識をとりあげ、機能的側面として、生産的行為、社会的行為、文化的行為、家政的行為、家事的行為、生理的行為をとりあげた。そして、横軸の構造的側面の諸要因と縦軸の機能的側面の諸要因とでクロスされてできた各々のセルにあてはまるような調査質問文と選択肢を考え、調査票を作成した。この論稿では、紙幅の関係上、そのうちの主なもののみとりあげて分析することにした。

すなわち、(1)看護婦志望の動機、看護専門学校<sup>1)</sup>入学動機、(2)看護学生としての誇り、(3)卒業後の進路と看護婦継続意志、(4)社会参加活動、家庭・学校での役割遂行、(5)生活意識 の大きく分けて5つの領域である。

ところで、この調査の方法としては、留置法を用いた。この調査の主旨を説明し、昭和61年2月5日に各学年ごとにアンケート調査票を配布し、2月19日までに各学年ごとに回収した。調査対象者は、香川県内のK看護専門学校の学生である。昭和61年2月1日現在の学生数は1年生31人、2年生26人、3年生28人、公助科22人であり、学生総数は107人であった。統計的方法の中でも全

数調査の手法を用いて、全員に回答していただき、回収率は100%であった。

調査結果の分析は、「学年別」と「看護婦志望動機類型別」に実施した。ところで、この看護婦志望の動機の類型化は、次のような手順で行った。すなわち、まず、「あなたはどのようにして看護婦になろうと思われましたか」というように、看護婦志望の動機を尋ねた。そして、次のような選択肢の中から主なものを二つ順に選んでもらったところ、第1位では次のような調査結果を得た。

- ① 白衣の天使にあこがれて …………… 5人( 4.7%)
- ② 女性の仕事としてやりがいがある …………… 51人( 47.7%)
- ③ 社会に役立ちたいから …………… 9人( 8.4%)
- ④ 親や兄弟姉妹, 親類, 知人のすすめで …………… 6人( 5.6%)
- ⑤ 高収入が得られるから …………… 10人( 9.3%)
- ⑥ 学費があまりかからず職につけるから …………… 13人( 12.1%)
- ⑦ ただなんとなく …………… 3人( 2.8%)
- ⑧ その他 …………… 10人( 9.3%)

この結果をもとにして、②と③をいっしょにしてⅠ「社会型」、④と⑤と⑥をいっしょにしてⅡ「他律型」、①と⑦と⑧をいっしょにしてⅢ「漠然型」というように、看護婦志望動機を三つの類型に再分類した。

それでは、以下において、調査結果の分析を試みたい。

### 3. 調査結果の分析

#### (1) 看護専門学校への入学動機

看護専門学校に入学した動機について尋ねてみると(第1表参照)、全体としては「先輩がいるから」、「親や先生に勧められたから」、「友達も入るから」、といういわば他からの勧誘型が20.6%も占めている。これに、「学費が安い」(18.7%)、「通学に、交通の便利がよい」(8.4%)を加えると約半数近くの学生が他律的な要因をあげている。これに対して、「看護教育がすすんでいるから」としたのは10%にも満たない。

次に、学年別にみると、①の他からの勧誘型は低学年ほど高いが、③の看護

第1表 学年別「看護専門学校への入学動機」

(パーセント)

|       | ① 先輩がいる<br>友だちも入る | ② 名がとおっている | ③ 看護教育が<br>すすんでいる | ④ 学費が安い | ⑤ 通学に、交通の<br>便利がよい | ⑥ 他の学校に<br>合格しなかった | ⑦ その他 | Total |
|-------|-------------------|------------|-------------------|---------|--------------------|--------------------|-------|-------|
| 1年    | 25.8              | 12.9       | 0                 | 19.4    | 22.6               | 6.4                | 12.9  | 100.0 |
| 2年    | 23.1              | 3.9        | 3.9               | 26.9    | 0                  | 11.4               | 30.8  | 100.0 |
| 3年    | 17.9              | 10.7       | 14.3              | 17.9    | 7.1                | 21.4               | 10.7  | 100.0 |
| 公助科   | 13.6              | 22.7       | 22.7              | 9.1     | 0                  | 13.6               | 18.2  | 100.0 |
| Total | 20.6              | 12.2       | 9.3               | 18.7    | 8.4                | 13.1               | 17.7  | 100.0 |

教育評価型は学年が上昇するにつれて高くなってきている。

さらに、「看護婦志望動機」の三類型と看護専門学校入学の動機との相関関係をみとめる(第2表参照)。

第2表 類型化別「看護専門学校への入学動機」

(パーセント)

|         | ① 先輩がいる<br>友だちも入る | ② 名がとおっている | ③ 看護教育が<br>すすんでいる | ④ 学費が安い | ⑤ 通学に、交通の<br>便がよい | ⑥ 他の学校に合格<br>しなかった | ⑦ その他 | Total |
|---------|-------------------|------------|-------------------|---------|-------------------|--------------------|-------|-------|
| I 社会型   | 25.0              | 13.3       | 13.3              | 13.3    | 11.7              | 8.3                | 15.1  | 100.0 |
| II 他律型  | 24.1              | 6.9        | 3.5               | 31.0    | 3.5               | 17.2               | 13.8  | 100.0 |
| III 漠然型 | 0                 | 16.6       | 5.6               | 16.7    | 5.6               | 22.2               | 33.3  | 100.0 |
| Total   | 20.6              | 12.2       | 9.3               | 18.7    | 8.4               | 13.1               | 17.7  | 100.0 |

Iの「社会型」も、やはり①の勧誘型的要因もあげているが、③の看護教育評価型と②の看護学校評価型も比較的多くみられる。これに対し、IIの「他律型」は④の経済的理由や①の勧誘型的要因や⑥の他学校不合格のためというように、まさに他律的・消極的要因が多くを占めている。また、IIIの「漠然型」は、やはり⑦の「その他」のさまざまな要因を挙げ、まさに漠然としており、

⑥の他学校不合格のためという消極的要因も多くみられる。

## (2) 看護学生としての誇り

看護学生が看護婦をめざす学生として誇りを持っているか否かについてみると(第3表参照)、1年生、2年生では大半が③の「わからない」と答えているのに対し、3年生と公助科では4分の3が①の誇りを「持っている」と答えている。

1, 2年生と3年生, 公助科とでこのようにきわだった対照をみせているのは, 3年以降より専門的な教育を受けることで, 豊富な知識や技術を得た自信, および近づく卒業・就職を控え, 看護婦としての職業意識の自覚によるものと考えられる。

次に, 「看護婦志望動機」の三類型と看護学生としての誇りの有無との関係のみてみる(第4表参照)。

看護学生としての誇りを「持っている」というのは, Iの「社会型」に最も多く, 61.7%であり, IIの「他律型」は27.6%に過ぎない。誇りを「持っていない」というのは, やはり「社会型」は皆無であるが, 「他律型」では17.2%もある。ところで, 「わからない」というのは「他律型」に多く, 約半数余り(55.2%)である。IIIの「漠然型」では, 誇りを「持っている」のも約半数いるが, 「わからない」というのも半数弱あり, まさに半々に分かれているといえよう。

## (3) 看護婦志望の時期

いつ頃看護婦を志望したかについてみると(第5表参照), 高校在学期が最

第3表 学年別「看護学生としての誇り」  
(パーセント)

|       | ①<br>持っている | ②<br>持っていない | ③<br>わからない | Total |
|-------|------------|-------------|------------|-------|
| 1年    | 41.9       | 3.2         | 54.9       | 100.0 |
| 2年    | 11.5       | 15.4        | 73.1       | 100.0 |
| 3年    | 75.0       | 3.6         | 21.4       | 100.0 |
| 公助科   | 72.7       | 4.6         | 22.7       | 100.0 |
| Total | 49.5       | 6.5         | 44.0       | 100.0 |

第4表 類型化別「看護学生としての誇り」  
(パーセント)

|        | ①<br>持っている | ②<br>持っていない | ③<br>わからない | Total |
|--------|------------|-------------|------------|-------|
| I社会型   | 61.7       | 0           | 38.3       | 100.0 |
| II他律型  | 27.6       | 17.2        | 55.2       | 100.0 |
| III漠然型 | 44.4       | 11.2        | 44.4       | 100.0 |
| Total  | 49.5       | 6.5         | 44.0       | 100.0 |

も多く過半数に及んでい  
る。だが、高校のいつご  
ろに決めたかとなると、  
学年によって差が生ずる。  
高3前半（1，2学期）  
に決めた、というのは2  
年の46.2%を筆頭に、1  
年32.3%，公助科31.8  
%であるのに対し、3年  
は14.3%にとどまってい

第5表 学年別「看護婦志望の時期」

(パーセント)

|       | 1. 小・中学生の頃 | 2. 高校1・2年の頃 | 3. 高校2・3年の1・2学期の頃 | 4. 卒業前後 | 5. その他からない | Total |
|-------|------------|-------------|-------------------|---------|------------|-------|
| 1年    | 22.6       | 19.4        | 32.3              | 16.0    | 9.7        | 100.0 |
| 2年    | 15.4       | 11.5        | 46.2              | 11.5    | 15.4       | 100.0 |
| 3年    | 28.6       | 42.8        | 14.3              | 10.7    | 3.6        | 100.0 |
| 公助科   | 22.7       | 9.1         | 31.8              | 13.7    | 22.7       | 100.0 |
| Total | 22.4       | 21.5        | 30.8              | 13.1    | 12.2       | 100.0 |

る。3年は高1，2の時に決めたというのが42.8%に達していて、比較的早い時期に志望を固めているのが注目される。

看護婦という職業は、小学生女子にとっては憧れの職種のひとつに数えられるが、その憧れを具体的な進路選択の段階にまで貫くのはごく少数である。学生の大半は、高校生の時期になって、自分の適性，能力にかなり職業を模索して、その結論として、看護婦という仕事を選択したものと考えられる。

次に、「看護婦志望動機」の三類型と看護婦志望の時期との相関関係をみよう（第6表参照）。

第6表 類型化別「看護婦志望の時期」

(パーセント)

I「社会型」は、「小学生，中学生」くらいから看護婦になろうと決めているのが多く

(28.3%)，ついで「高校1，2年」(26.7%)，「高校3年の1，2学期」(28.3%)であり，ほぼこの時期までにはほとんどのものが看護婦志望を決定しているといえる。ところで，IIの「他律型」は，「高校3年の1，2年の1，2学期」くらいから決めはじめ(37.9%)，「卒業直前・卒業後」にやっと決めるということもある(20.7%)。IIIの「漠然型」は，「高校3年の1，

|         | 1. 小・中学生の頃 | 2. 高校1・2年の頃 | 3. 高校1・2・3学期の1・2年 | 4. 卒業前後 | 5. その他からない | Total |
|---------|------------|-------------|-------------------|---------|------------|-------|
| I 社会型   | 28.3       | 26.7        | 28.3              | 11.7    | 5.0        | 100.0 |
| II 他律型  | 10.3       | 13.8        | 37.9              | 20.7    | 17.3       | 100.0 |
| III 漠然型 | 22.2       | 16.7        | 27.8              | 5.6     | 27.7       | 100.0 |
| Total   | 22.4       | 21.5        | 30.8              | 13.1    | 12.2       | 100.0 |

2学期」くらいに決めるのと、「まだわからない、その他」が多く、まだ決めかねている学生もいるようである。

要するに、「社会型」は早くから看護婦志望を決めているのが多いのに対し、「他律型」は卒業近くになり遅くなってから決めている。「漠然型」も遅く決めており、また、まだ決定していない学生もみうけられる。

#### (4) 卒業後の進路

「看護婦志望動機」の三類型と卒業後の進路の相関関係をみてみよう（第7表参照）。

第7表 類型化別「卒業後の進路」

Iの「社会型」は

「看護婦」が多い(51.7%)が、他の類型よりも「進学(保健婦・助産婦)」も多く(31.7%)、また「看護教

(パーセント)

|         | 1. 看護婦 | 2. 進学<br>(保健婦<br>助産婦) | 3. 看護教員 | 4. その他の<br>職業 | Total |
|---------|--------|-----------------------|---------|---------------|-------|
| I 社会型   | 51.7   | 31.7                  | 3.3     | 13.3          | 100.0 |
| II 他律型  | 58.6   | 24.1                  | 0       | 17.3          | 100.0 |
| III 漠然型 | 50.0   | 22.2                  | 0       | 27.8          | 100.0 |
| Total   | 53.3   | 28.0                  | 1.9     | 16.8          | 100.0 |

員」になりたいというものが若干ならみられた。IIの「他律型」は、最も「看護婦」になりたいというものが多くみられた(58.6%)。IIIの「漠然型」も看護婦になりたいというものが多く(50.0%)が、他の類型に比してやや少なくなり、看護婦以外の「その他の職業」をあげているもの(27.8%)もいる。

#### (5) 看護婦の仕事の継続意志

女性にとって家庭と仕事の両立は大きな課題であるが、看護婦をめざす学生は結婚後も看護婦の仕事を継続する意志があるのかどうか聞いてみた(第8表参照)。

全体では、「結婚してもずっと続ける」(32.7%)と「子どもが生まれたらやめ、子どもが成長したらまた働く」(30.8%)にはほぼ二分されており、育児の面をどうするかについては意見は分かれるものの、生涯にわたって継続する意志のあることが読みとれる。

しかし、学年別では差がみられ、「結婚してもずっと続ける」は、公助科

54.6%と過半数に及んでいるのに対し、2年生は15.4%にとどまっている。「結婚したらすぐやめる」は公助科は18.2%，それに対して2年生は26.9%であり対照的であるといえる。

第8表 学年別「看護婦の仕事継続意志」

(パーセント)

|       | 1.<br>すぐ結婚したらやめる | 2.<br>ずっと結婚しても続ける | 3.<br>子どもが生まれたらやめる | 4.<br>子どもが成長したらまた働く | 5.<br>その他 | 6.<br>D.K.<br>N.A. | Total |
|-------|------------------|-------------------|--------------------|---------------------|-----------|--------------------|-------|
| 1年    | 3.2              | 29.0              | 16.2               | 35.5                | 12.9      | 3.2                | 100.0 |
| 2年    | 26.9             | 15.4              | 7.7                | 30.8                | 19.2      | 0                  | 100.0 |
| 3年    | 3.6              | 35.7              | 7.1                | 35.7                | 14.3      | 3.6                | 100.0 |
| 公助科   | 0                | 54.6              | 4.5                | 18.2                | 22.7      | 0                  | 100.0 |
| Total | 8.4              | 32.7              | 9.4                | 30.8                | 16.8      | 1.9                | 100.0 |

次に、「看護婦志望の動機」の三類型と看護婦継続意志との相関関係をみてみる(第9表参照)。

I 「社会型」

第9表 類型化別「看護婦の仕事継続意志」

(パーセント)

では、「結婚しても、ずっと続ける」というのが最も多く(46.7%)とほぼ半数を占めている。また、「子供が生まれたらやめ、

|         | 1.<br>すぐ結婚したらやめる | 2.<br>ずっと結婚しても続ける | 3.<br>子どもが生まれたらやめる | 4.<br>子どもが成長したらまた働く | 5.<br>その他 | 6.<br>D.K.<br>N.A. | Total |
|---------|------------------|-------------------|--------------------|---------------------|-----------|--------------------|-------|
| I 社会型   | 3.3              | 46.7              | 5.0                | 30.0                | 11.7      | 3.3                | 100.0 |
| II 他律型  | 17.3             | 10.3              | 13.8               | 34.5                | 24.1      | 0                  | 100.0 |
| III 漠然型 | 11.1             | 22.2              | 16.7               | 27.8                | 22.2      | 0                  | 100.0 |
| Total   | 8.4              | 32.7              | 9.4                | 30.8                | 16.8      | 1.9                | 100.0 |

子どもが成長したらまた働く」というのも30.0%とやや多いほうである。これに対し、IIの「他律型」は「子どもが生まれたらやめ、子どもが成長したらまた働く」というのが34.5%と多いが、他の類型に比較して「結婚したら、すぐやめる」というのも次に多く17.3%である。IIIの「漠然型」も「子どもが生まれたらやめ、子どもが成長したらまた働く」というのが多いのであるが(27.8%)、他の類型と較べると相対的に低く、意見も多様に分散している。

要するに、「社会型」ほど継続意志が強固であるが、「他律型」、「漠然型」では継続意志がやや弱く、他律型ではその傾向が顕著にみられ、「漠然型」で



は拡散的な状況である。

#### (6) ボランティア活動への参加

学生たちはボランティア活動など、社会福祉活動に参加する体験をしているであろうか。参加経験の有無についてみると（第10表参照）、「ある」53.3%、「ない」46.7%で過半数が何らかの形で参加している。学年別ではかなりの差がみられ、活動参加が「ある」としたのは、2年生を除いて半数を超え、特に3年では78.6%に及んでいるのに対し、2年はわずか26.9%にとどまっている。

第10表 学年別「ボランティア活動への参加」  
(パーセント)

|       | 1. ある | 2. ない | Total |
|-------|-------|-------|-------|
| 1 年   | 51.6  | 48.4  | 100.0 |
| 2 年   | 26.9  | 73.1  | 100.0 |
| 3 年   | 78.6  | 21.4  | 100.0 |
| 公助科   | 54.6  | 45.4  | 100.0 |
| Total | 53.3  | 46.7  | 100.0 |

ボランティア活動への参加の程度がこのように学年によって分散しているのは何によるのであろうか。学校に入学したばかりの1年生は、新しい学校——専門学校の生活に慣れるのに精一杯で、ボランティア活動にもその意義を深く考えることなく参加していつていると思われる。だが、2年生になると、学校生活に一応慣れる一方、卒業後の進路決定も猶予されているため、自己の内面を見つめる余裕ができるとも考えられる。アイデンティティの確立を目前にして、さまざまな葛藤に悩むのがこの時期であり、自分の現在の姿がいったいどのような意味をもっているのかを、絶えず問いかけているとも考えられる。彼女たちの問いかけは、ボランティア活動の意味に対しても向けられる。その際、学生たちはいったん活動から離れた上で考えようとしているのではないか。そして、3年の段階で自分なりに結論を出し、また看護実習を通し、さらに専門的看護知識の修得を通して、社会福祉の意義を十分に認識し、あらためてボランティア活動に関わっていくものと思われる。

次に、「看護婦志望の動機」の3類型とボランティア活動への参加との間の相関関係をみってみる（第11表参照）。

ボランティア活動参加経験の有無についてみると、Iの「社会型」では60.0

％が経験が「ある」としているのに対し、Ⅱの「他律型」は48.3％、Ⅲの「漠然型」では38.9％で、明確な差があらわれている。ここでも、さまざまな社会参加体験を積むことによって、理想の看護婦に近づこうと努力する「社会型」と、社会参加に積極的な意義を見出しかねている「他律型」および「漠然型」の姿が浮き彫りにされている。

第11表 類型化別「ボランティア活動への参加」

(パーセント)

|         | 1. ある | 2. ない | Total |
|---------|-------|-------|-------|
| I 社会型   | 60.0  | 40.0  | 100.0 |
| II 他律型  | 48.3  | 51.7  | 100.0 |
| III 漠然型 | 38.9  | 61.1  | 100.0 |
| Total   | 53.3  | 46.7  | 100.0 |

(7) 家庭や学校での役割遂行

学生たちは家庭で与えられた役割をどの程度遂行していると自分で認識しているのでしょうか。役割遂行について5段階で自己評価してもらった。なお、①が「十分やっていると思う」、②「やややっていると思う」、③が「どちらともいえない」、④が「あまりやっていないと思う」、⑤が「やっていないと思う」というように、①から⑤までの順で遂行の度合いが低くなっていく(第12表参照)。

第12表 類型化別「家庭での役割遂行」

(パーセント)

|         | ①    | ②    | ③    | ④    | ⑤    | D.K.<br>N.A. | Total |
|---------|------|------|------|------|------|--------------|-------|
| I 社会型   | 13.3 | 11.7 | 36.7 | 25.0 | 11.7 | 1.6          | 100.0 |
| II 他律型  | 10.4 | 17.2 | 27.6 | 24.1 | 20.7 | 0            | 100.0 |
| III 漠然型 | 16.7 | 16.7 | 27.8 | 27.8 | 11.0 | 0            | 100.0 |
| Total   | 13.1 | 14.0 | 32.7 | 25.3 | 14.0 | 0.9          | 100.0 |

Ⅰの「社会型」では④と⑤で36.7％であり、Ⅱの「他律型」になると④と⑤で44.8％で、他

律型ほど、十分こなしているという認識がやや低くなる。Ⅲの「漠然型」となると、④と⑤は38.8％であるが、自己評価が他へも拡散している状態である。

次に、学校での役割をよく果たしているかどうかについて自己評価を求めた(第13表参照)。

Ⅰの「社会型」は③に56.7％が集中している。Ⅱの「他律型」は③に41.4％、④に34.5％。Ⅲの「漠然型」では③に55.6％と⑤に22.2％にそれぞれ分かれる傾向がある。

「他律型」,

第13表 類型化別「学校での役割遂行」

(パーセント)

「漠然型」は自分の役割遂行への評価は低い方向にむかう傾向にある。

|         | ①   | ②    | ③    | ④    | ⑤    | D.K.<br>N.A. | Total |
|---------|-----|------|------|------|------|--------------|-------|
| I 社会型   | 1.7 | 15.0 | 56.7 | 11.6 | 13.3 | 1.7          | 100.0 |
| II 他律型  | 0   | 10.3 | 41.4 | 34.5 | 13.8 | 0            | 100.0 |
| III 漠然型 | 0   | 16.7 | 55.6 | 5.5  | 22.2 | 0            | 100.0 |
| Total   | 0.9 | 14.0 | 52.4 | 16.8 | 15.0 | 0.9          | 100.0 |

(8) 看護に対する積極性

看護婦をめざす学生として、急を要する場面にどう対応するのか。「大勢の人のいる前で気分の悪い人が出たとき、積極的に看病しますか」という質問を試みた(第14表参照)。

第14表 学年別「看護に対する積極性」

(パーセント)

全体では、「自信がないので、やりたいがみている」、すなわち、意欲はあっても傍観するというのが過半数の58.9%に達し、「積極的に看病する」は34.6%にとどまった。

|       | 1. 看<br>病積<br>極的<br>する<br>に | 2. がで<br>自信<br>が<br>みて<br>やが<br>いり<br>たい<br>の | 3. 放<br>誰<br>か<br>や<br>る<br>か<br>ら<br>お<br>く | 4. 無<br>視<br>す<br>る | 5. D.K.<br>N.A. | Total |
|-------|-----------------------------|---|--|---------------------|-----------------|-------|
| 1 年   | 19.4                        | 74.2  | 3.2  | 3.2                 | 0               | 100.0 |
| 2 年   | 26.9                        | 57.7  | 7.7  | 0                   | 7.7             | 100.0 |
| 3 年   | 42.9                        | 57.1  | 0  | 0                   | 0               | 100.0 |
| 公助科   | 54.6                        | 40.9  | 4.5  | 0                   | 0               | 100.0 |
| Total | 34.6                        | 58.9  | 3.7  | 0.9                 | 1.9             | 100.0 |

学年別にみると、傍観

者の態度をとるのは1年に多く74.2%にも達している。学年が進むにつれてこの数字は徐々に減少してはいるが、公助科に至ってもなお40.9%の高い割合を示している。

対照的に「積極的に看病する」と答えたのは、1年ではわずか19.4%で、学年が進むにつれて増加してはいるが、過半数に達するのは公助科だけである。

この調査結果より、学生たちはとっさの時の対応に大きな不安を根強く持っていることがうかがえる。確かにこの種の不安は、学校の授業、実習および自ら参加するボランティア活動によって次第に軽減されてはいくと思われる。しかし、そのような多様な体験も緊急時の看病への自信につながっているとはいえない。これは臨機応変な対応が求められる場合に際し、自分の学んだ知識や

技術が生かせるのかという不安によるものが大きいことは第一に指摘できる。だがもうひとつ、学生たちはこれまで過ごしてきた生活の中では生々しい体験をあまりしていないのではないかという疑問も生ずる。受験競争の中で、知識の詰め込みに終始したこれまでの学校生活を通り抜けた学生は、社会的な経験の多様に乏しいのではないと思われる。

次に、「看護婦志望の動機」の3類型と「看護に対する積極性」との相関をみていく(第15表参照)。

第15表 類型化別「看護に対する積極性」

「積極的に看病する」

(パーセント)

はⅠの「社会型」で41.6%で、Ⅱの「他律型」24.1%、Ⅲの「漠然型」27.8%に較べて卓越している。

その表裏をなすよう

|       | 1.<br>看 積<br>病 極<br>す 的<br>る に | 2.<br>が で 自<br>み て 信<br>や が<br>い り が<br>な い<br>る た い<br>の | 3.<br>で 誰<br>放 か<br>つ が<br>て や<br>お ろ<br>く の | 4.<br>無<br>視<br>す<br>る | 5.<br>D.K.<br>N.A. | Total |
|-------|--------------------------------|---|--|------------------------|--------------------|-------|
| Ⅰ 社会型 | 41.6                           | 53.3  | 1.7  | 1.7                    | 1.7                | 100.0 |
| Ⅱ 他律型 | 24.1                           | 65.6  | 10.3   | 0                      | 0                  | 100.0 |
| Ⅲ 漠然型 | 27.8                           | 66.6  | 0  | 0                      | 5.6                | 100.0 |
| Total | 34.6                           | 58.9  | 3.7  | 0.9                    | 1.9                | 100.0 |

に、「自信がないので、

やりたいがみている」は、Ⅰの「社会型」は53.3%であるのに対し、Ⅱの「他律型」は65.6%、Ⅲの「漠然型」は66.6%である。「誰かがやるので放っておく」はⅡの「他律型」で10.3%を示している。

このように、「社会型」は全体としては「自信がないので、やりたいがみている」というのが多いが、「社会型」は積極的に看病していこうという姿勢がうかがえ、「他律型」は「やりたいがみている」や「放っておく」も増加し、傍観視的タイプが増えてきている。「漠然型」は、「放っておく」というタイプこそないものの、相対的に積極性に欠けていると思われる。

### (9) 生活意識

#### ① 属性主義か業績主義か

人間の将来は自分の能力で決まるか、それとも親の職業や家柄によって決まるか。いわば業績主義によるか、属性主義によるか。看護学生はどう考えているのであろうか(第16表参照)。

全体では、「親の職業や家柄で決まる」と肯定している学生が44.9%で、否定する学生33.6%をやや上回っている。

学年別でみると、1年生では属性主義的態度をもつ者が45.2%で、業績主義的態度の者29.0%を上回っているが、他の学年は後者が多く、2年生53.8%、3年生42.9%、公助科59.1%となっている。

第16表 学年別「属性主義か業績主義か」  
(パーセント)

|       | 思 う  | 思 な い | わ かり ない | Total |
|-------|------|-------|---------|-------|
| 1 年   | 29.0 | 45.2  | 25.8    | 100.0 |
| 2 年   | 53.8 | 23.1  | 23.1    | 100.0 |
| 3 年   | 42.9 | 35.7  | 21.4    | 100.0 |
| 公助科   | 59.1 | 27.3  | 13.6    | 100.0 |
| Total | 44.9 | 33.6  | 21.5    | 100.0 |

次に「看護婦志望の動機」の三類型と「属性主義か業績主義か」との相関関係を見ていく(第17表参照)。

「親の職業や家柄」によって人間の将来が決まるとする、いわば「属性主義」の考えは、Ⅱの「他律型」とⅢの「漠然型」が双方とも6割に及んでいるのに対し、Ⅰの「社会型」は31.7%とほぼⅡとⅢの半分である。これと対

第17表 類型化別「属性主義か業績主義か」  
(パーセント)

|       | 1. 思 う | 2. 思 な い | 3. わ かり ない | Total |
|-------|--------|----------|------------|-------|
| I 社会型 | 31.7   | 45.0     | 23.3       | 100.0 |
| Ⅱ 他律型 | 62.1   | 20.7     | 17.2       | 100.0 |
| Ⅲ 漠然型 | 61.1   | 16.7     | 22.2       | 100.0 |
| Total | 44.9   | 33.6     | 21.5       | 100.0 |

照的に「人間の将来は親の職業や家柄によって決まるものではない」と考えるいわば「業績主義」は、Ⅰ「社会型」で45%であるのに対し、Ⅱの「他律型」や、Ⅲの「漠然型」はそれぞれ20.7%、16.7%にとどまっている。すなわち、Ⅰの「社会型」は、人生はあくまで自らの努力、意志及び能力によって切り開くものだというように「業績主義」の立場にたっているのに対し、Ⅱの「他律型」およびⅢの「漠然型」は、人生の将来は属性的な与件的な要因によって決定されていると考える「属性主義」の立場をとり、傍観しているともいえる。

② 能力の男女差

思考などの能力において男女に差はあるのか否かについて尋ねてみると(第18表参照),全体では「差がある」30.8%、「差がない」17.8%、「場合による」48.6%であった。

学年別では、「差がある」は公助科に最も多く50.0%、以下3年生32.1%、2年生38.5%、1年生9.7%となっており、高学年に男女差を肯定する傾向が

ある。

第18表 学年別「能力の男女差」

(パーセント)

看護専門学校という性格上、同年齢の男子との接触の機会は比較的小さいといえる。男性といえば、医師ぐらいであり、いわば専門的な能力を備えた男性である。そのため、彼らから教授される学生たちは、能力では差があると意識しているのではないとも推測される。

|       | 1. 差がある | 2. 差がない | 3. 場合による | 4. わからない | Total |
|-------|---------|---------|----------|----------|-------|
| 1 年   | 9.7     | 19.4    | 67.7     | 3.2      | 100.0 |
| 2 年   | 38.5    | 15.4    | 46.1     | 0        | 100.0 |
| 3 年   | 32.1    | 17.9    | 46.4     | 3.6      | 100.0 |
| 公助科   | 50.0    | 18.2    | 27.3     | 4.5      | 100.0 |
| Total | 30.8    | 17.8    | 48.6     | 2.8      | 100.0 |

次に、「看護婦志望の動機」の三類型と「能力の男女差」との相関関係についてみてみよう(第19表参照)。

第19表 類型化別「能力の男女差」

(パーセント)

「差がある」とするのは、Ⅰの「社会型」25.0%、Ⅱの「他律型」は37.9%、Ⅲの「漠然型」は38.9%である。「差がない」とするのは、「社会型」26.7%、「他律型」3.5%、「漠然型」11.1%であり、「他律型」「漠然型」は男女差を肯定する傾向が強くとくにこの「差がある」と「差がない」のへだたりが顕著で、「漠然型」にその傾向が多くみられる。ただ、「社会型」と「他律型」は「場合による」がそれぞれ46.7%、58.6%と高く、男女の能力差の有無に対して断定するのではなく、より広い視野で考えているように思われる。

|       | 1. 差がある | 2. 差がない | 3. 場合による | 4. わからない | Total |
|-------|---------|---------|----------|----------|-------|
| Ⅰ 社会型 | 25.0    | 26.7    | 46.7     | 1.6      | 100.0 |
| Ⅱ 他律型 | 37.9    | 3.5     | 58.6     | 0        | 100.0 |
| Ⅲ 漠然型 | 38.9    | 11.1    | 38.9     | 11.1     | 100.0 |
| Total | 30.8    | 17.8    | 48.6     | 2.8      | 100.0 |

③ 余暇観と労働観

第20表 学年別「余暇観と労働観」

(パーセント)

余暇と労働に対して看護学生たちはどのように考えているのだろうか(第20表参照)。

全体では、「仕事も余暇も同じように考える」40.2%、「余暇のために仕事」20.6%、「仕事のために余暇をとる」19.6%

|       | 1. 余暇に仕事をたすめ | 2. 仕事に余暇をとめ | 3. 仕事も余暇も考える | 4. いえんないも | Total |
|-------|--------------|-------------|--------------|-----------|-------|
| 1 年   | 12.9         | 25.8        | 38.7         | 22.6      | 100.0 |
| 2 年   | 19.2         | 26.9        | 23.1         | 30.8      | 100.0 |
| 3 年   | 25.0         | 17.9        | 42.9         | 14.2      | 100.0 |
| 公助科   | 27.3         | 4.6         | 59.1         | 9.0       | 100.0 |
| Total | 20.6         | 19.6        | 40.2         | 19.6      | 100.0 |

で、どちらかといえば余暇の方にやや比重をおいている。

学年別にみると、高学年ほど余暇を重視している傾向がある。趣味・関心などが多様化かつ深化し、その面が余暇への欲求という形で反映しているものと思われる。

次に、「看護婦志望の動機」の三類型と「余暇観と職業観」との相関関係を見てみよう(第21表参照)。

第21表 類型化別「余暇観と職業観」

(パーセント)

|         | 1. 仕余<br>た余<br>事を暇<br>めする<br>にの | 2. 余た仕<br>暇をめ事<br>とるにの | 3. 仕同<br>事も<br>考え<br>るよ<br>う暇 | 4. いな<br>えん<br>ない<br>も | Total |
|---------|---------------------------------|------------------------|-------------------------------|------------------------|-------|
| I 社会型   | 21.7                            | 21.7                   | 41.6                          | 15.0                   | 100.0 |
| II 他律型  | 10.3                            | 20.7                   | 34.5                          | 34.5                   | 100.0 |
| III 漠然型 | 33.3                            | 11.1                   | 44.5                          | 11.1                   | 100.0 |
| Total   | 20.6                            | 19.6                   | 40.2                          | 19.6                   | 100.0 |

Iの「社会型」は双方のバランスを均等に考えているのが多い。IIの「他律型」はバランスも考えているが、「なんともいえない」も34.5%で、その場に応じて対応していく様子うかがえる。IIIの「漠

然型」は、他の二類型と比較して、「余暇優先」が33.3%と最も高い。

④ 慣習と信念

「世のしきたり」と「自分の正しいと思うこと」が相容れぬ場合の行動の選択について尋ねてみた(第22表参照)。

第22表 学年別「慣習と信念」

(パーセント)

|       | 1. 押<br>し<br>通<br>す | 2. 自<br>分<br>の<br>正<br>し<br>い<br>こ<br>と<br>を<br>い | 3. 世<br>の<br>し<br>き<br>た<br>り | 4. そ<br>の<br>他 | Total |
|-------|---------------------|---|-------------------------------|----------------|-------|
| 1 年   | 32.3                | 35.5  | 32.2                          | 100.0          |       |
| 2 年   | 34.6                | 46.2  | 19.2                          | 100.0          |       |
| 3 年   | 39.3                | 32.1  | 28.6                          | 100.0          |       |
| 公助科   | 36.4                | 36.4  | 27.2                          | 100.0          |       |
| Total | 35.5                | 37.4  | 27.1                          | 100.0          |       |

すると、全体では、「世のしきたりに従う」、「自分の正しいと思うことに従う」、「その他」にほぼ三分された。まだ学生であり、「自分で決めるか、しきたりに従うか」といった選択を迫られるような場面を経験することが少ないことが原因として考えられる。

ところで、「看護婦志望の動機」の3類型は、「世のしきたり」と「自分の正しいと思うこと」の二者択一を迫られる場面では、どちらの行動をとるだろうか(第23表参照)。

Iの「社会型」では「自分の正しいと思うこと」に38.3%、「世のしきたり」

に31.7%と分かれたが、若干ながら前者が多い。

Ⅱの「他律型」では「世のしきたり」に過半数の51.7%を示し、まさに他律指向であることをうかがわせている。

Ⅲの「漠然型」では、「自分の正しいと思うこと」が44.5%、「世のしきたり」に33.3%と、これも若干、前者が上回っている。

第23表 類型化別「慣習の信念」

(パーセント)

|       | 1. 自分<br>の正しい<br>ことを<br>押し<br>通す | 2. 世の<br>しきたり | 3. そ<br>の<br>他 | Total |
|-------|----------------------------------|---------------|----------------|-------|
| I 社会型 | 38.3                             | 31.7          | 30.0           | 100.0 |
| Ⅱ 他律型 | 24.1                             | 51.8          | 24.1           | 100.0 |
| Ⅲ 漠然型 | 44.5                             | 33.3          | 22.2           | 100.0 |
| Total | 35.5                             | 37.4          | 27.1           | 100.0 |

⑤ 人生の中で最も強く求めているもの

現代の看護学生は、人生の中で何を求めているのか。このことについて尋ねてみると(第24表参照)。

第24表 学年別「人生の中で強く求めているもの」

(パーセント)

全体では「誠実」、「愛」に半数が集中しており、学生たちが愛情豊かに、素直に生きてゆきたいと考えていることがわかる。

学年別にみると、1年では「何を求めてよいかわからない」が51.6%で最も多く、人生における信念をまだつかみかね

|       | 1. 誠<br>実 | 2. 愛 | 3. お<br>金<br>・<br>地<br>位 | 4. やりがいのある仕事<br>国際協力への献身 | 5. 何を求めているの<br>か<br>よいのか<br>その他 | Total |
|-------|-----------|------|--------------------------|--------------------------|---------------------------------|-------|
| 1 年   | 16.1      | 12.9 | 12.9                     | 6.5                      | 51.6                            | 100.0 |
| 2 年   | 15.4      | 26.9 | 23.1                     | 3.8                      | 30.8                            | 100.0 |
| 3 年   | 25.0      | 53.6 | 0                        | 7.1                      | 14.3                            | 100.0 |
| 公助科   | 18.2      | 31.8 | 0                        | 22.7                     | 27.3                            | 100.0 |
| Total | 18.7      | 30.8 | 9.4                      | 9.4                      | 31.7                            | 100.0 |

ているようである。2年以上では「愛」が多いが、3年より、「やりがいのある仕事」が上位に登場してきており、より現実的に自分自身を見つめようとする傾向がうかがえる。

次に、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ型の各類型の学生は、「人生において最も必要なもの」についてどのように考えているのだろうか(第25表参照)。

Ⅰの「社会型」は「愛」(33.3%)、「誠実」(21.7%)に集中している。

Ⅱの「他律型」では、他の2類型と較べて「お金・地位」の割合が高い。Ⅲの



「漠然型」では「誠実」 および「愛」と、「何を求めているのかわからない」等にほぼ二分されている。  
 第25表 類型化別「人生の中で強く求めているもの」 (パーセント)

|         | 1. 誠<br>実 | 2. 愛 | 3. お金・地位 | 4. 献国仕や<br>身際事協<br>力への<br>ある | 5. わの何そ<br>かやま<br>らわら<br>らな<br>い<br>他 | Total |
|---------|-----------|------|----------|------------------------------|---------------------------------------|-------|
| I 社会型   | 21.7      | 33.3 | 6.7      | 10.0                         | 28.3                                  | 100.0 |
| II 他律型  | 13.8      | 24.1 | 17.3     | 13.8                         | 31.0                                  | 100.0 |
| III 漠然型 | 16.7      | 33.3 | 5.6      | 0                            | 44.4                                  | 100.0 |
| Total   | 18.7      | 30.8 | 9.4      | 9.4                          | 31.7                                  | 100.0 |

「社会型」は愛情もつて、誠実に生きてゆきたいと考えている。「他律

型」では「お金・地位」など、やや功利的・実利的な面も見られる。「漠然型」では、「愛」, 「誠実」を重視する点では「社会型」と類似しているが、その一方では確たる人生の指針を立てていない様子がうかがえ、まさに漠然としているといえよう。

#### 4. おわりに

これまでの調査結果を概略的に要約して、むすびにしたいと思う。

「看護婦志望の動機」の類型化で得たIの「社会型」は、「看護婦志望決定時期」も比較的早く、「入学動機」も積極的であり、看護学生としての「誇り」も高く、卒業後の「進路」では看護婦とするものも多いが、進学するものや看護教員になろうとするものもあり、看護婦の仕事の「継続意志」は強固といえる。また、「社会参加」も多く行ない、ボランティア活動にも加わり、家庭・学校での「役割」も十分に遂行し、「生活意識」も社会的・自律的な傾向がみられ、積極的であるといえよう。

ところが、IIの「他律型」やIIIの「漠然型」では「看護婦志望決定時期」も比較的遅く、「入学動機」も他律的で消極的な傾向がみられ、看護学生としての「誇り」も低い。卒業後の「進路」では、やはり看護婦になりたいというのが多いが、その他の職業に就きたいというものもある。そして、看護婦の仕事の「継続意志」は比較的弱い。「社会参加」にもあまり積極的な意義を見い出しておらず、家庭・学校での「役割」を十分に遂行していると自己認識はせず、

「生活意識」でも他律的・個人的な傾向がみられ、やや消極的であるといえよう。このような傾向は、特にⅢの「漠然型」で顕著にみられることもあるといえる。

やはり、ある職業をめざし、職につき、ある社会関係の中で役割を遂行しながら、目標を実現していくには、その職業を選択した動機がいかなるものであるかが大いに関連しているといえよう。

附記 この調査の実施に際してご協力いただいた香川県のK看護専門学校の看護教員と同校の学生に深謝する次第である。なお、調査結果の集計には、香川大学計算センターの MELCOM COSMO 700S を使用した。

#### 参 考 文 献

- ① 渡辺安男「生活構造論研究の方法と課題」『農村生活研究』第20巻第1号（通巻39号），昭和51年。
- ② 島村忠義編著『日本における臨床看護婦の職業意識構造に関する実証的研究』多賀出版，1984年。